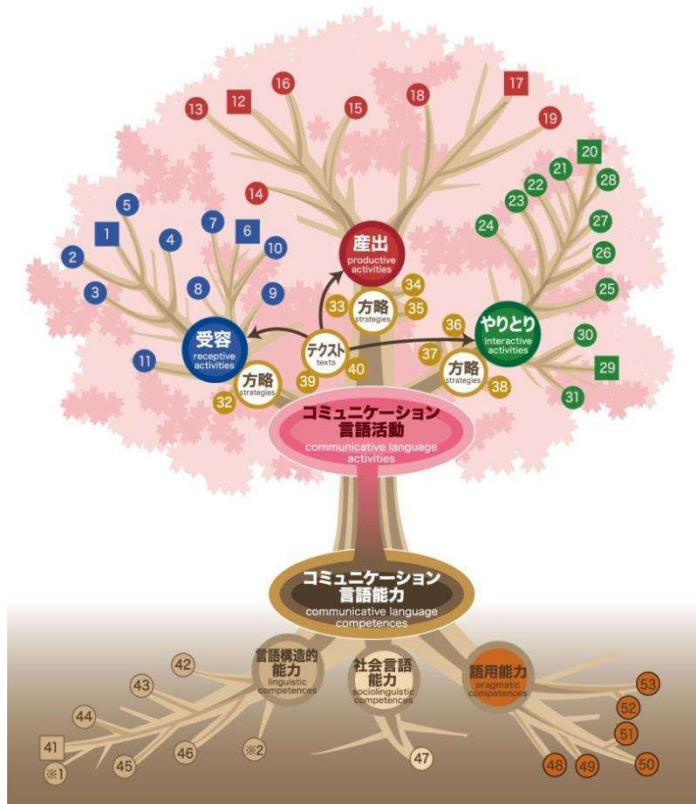


3. JFスタンダードの木

ー JF日本語教育スタンダードの コミュニケーション観

3. JFスタンダードの木

言語によるコミュニケーションを，言語能力と言語活動の関係でとらえ，一本の木で表現したもの



言語によるコミュニケーションのためには基礎となる**言語能力**が必要

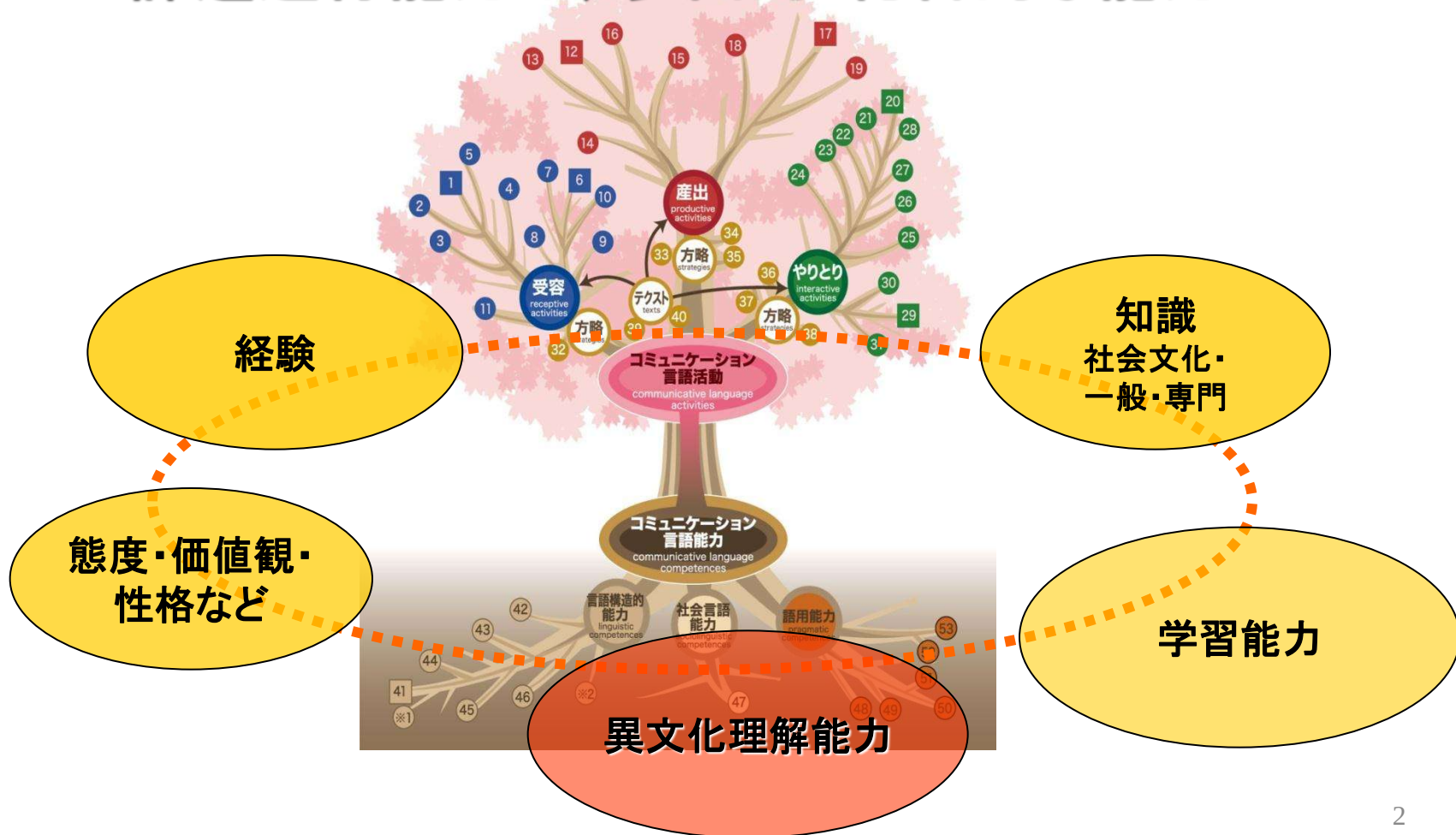
この言語能力を使って，さまざまな**言語活動**を行うことができる

『2010』 p.4-5、8-9

『ガイドブック』 p.3～

実際のコミュニケーションでは、言語に関する知識や能力以外に、異文化理解能力や学習能力などの能力や、様々な知識や経験が必要となる

課題遂行能力は、多面的・総合的な能力



3.1. コミュニケーション言語能力 (communicative language competences)

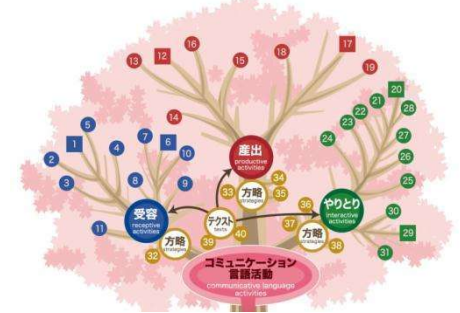
木の根として表現され
言語によるコミュニケーションを支えるもの



- 言語構造的な能力 (linguistic competences)
語彙・文法・発音・文字・表記など
- 社会言語能力 (sociolinguistic competences)
相手との関係や場面に応じた適切さ
- 語用能力 (pragmatic competences)
ディスコース(談話)の組み立てや
流暢さ, 正確さ など

3.2. コミュニケーション言語活動

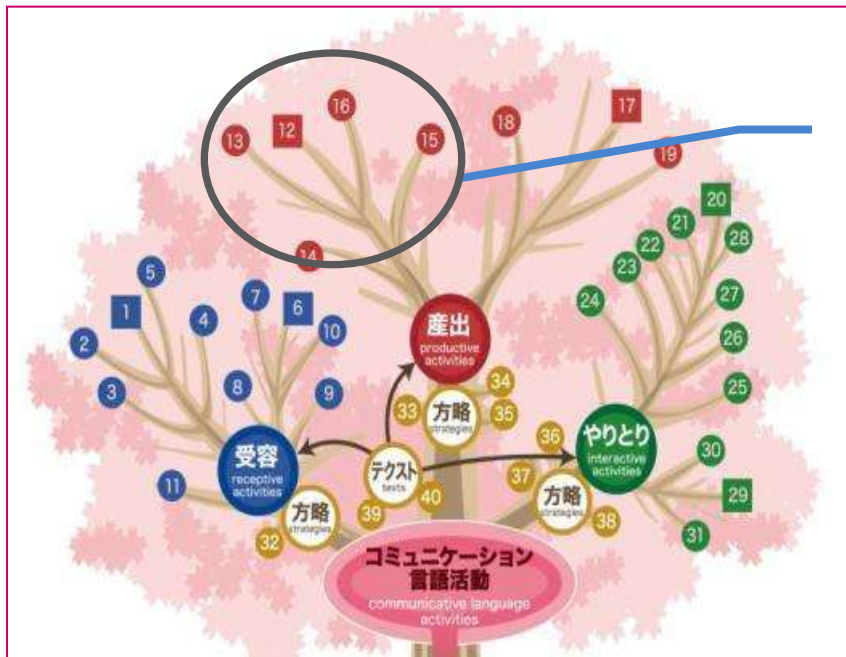
言語能力を基盤として
木の枝のように広がり、多様性があるもの



- **受容的活動（受容）** 読む・聞くなど
- **産出活動（産出）** 一人で長く話す・書くなど
- **相互行為活動（やりとり）** 会話や手紙のやりとりなど
- **テキストに関する言語活動（テキスト）**
メモとりやノートとり，要約など
- **コミュニケーション方略（方略）**
表現方法を考える，モニターする，推測する
発言権をとるなど

3.3. カテゴリー

1つ1つの枝や根で表された
言語能力の構成要素と言語活動
全部で53のカテゴリー



(例) 産出

話しことばに関するカテゴリー

【12話すこと全般】

【13経験や物語を語る】

【14論述する】

【15公共アナウンスをする】

【16講演やプレゼンテーションをする】

* カテゴリーは、包括的であるが、網羅的ではない

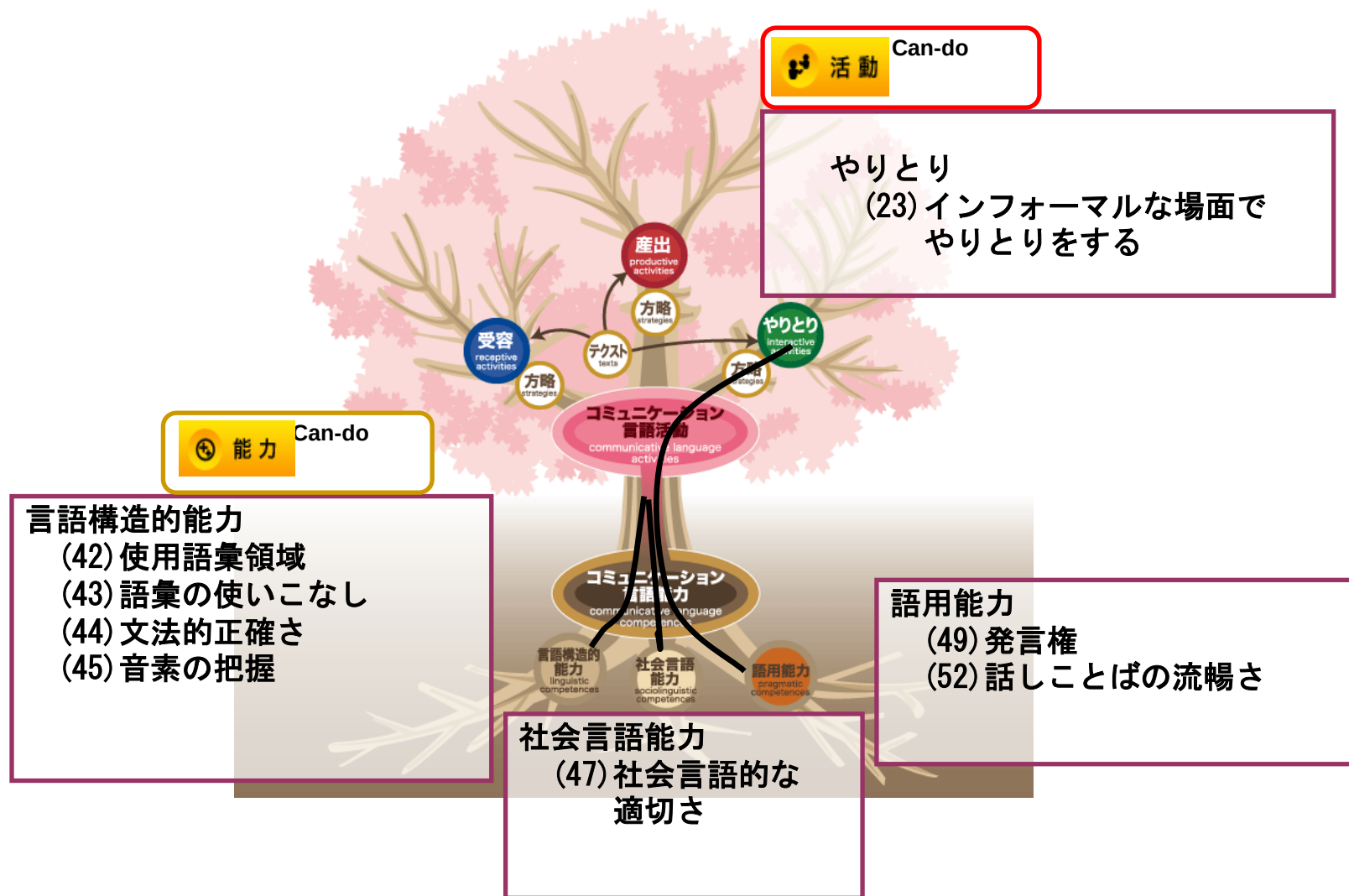
3.4. 活動と能力の関係の例:

産出(話す)「講演やプレゼンテーションをする」



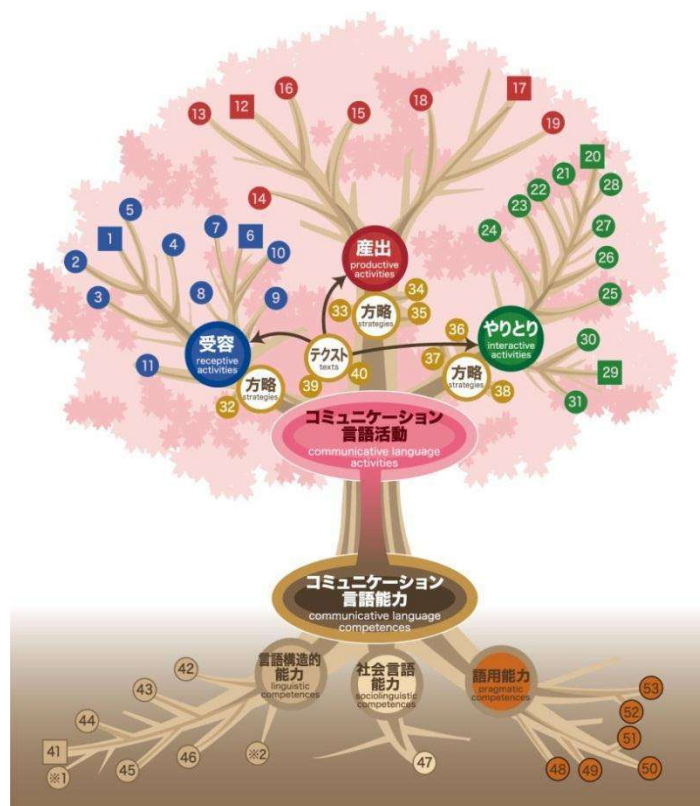
活動と能力の関係の例：やりとり(話す)

「インフォーマルな場面でやりとりをする」の場合



ワーク1: JFスタンダードの木を 使ってみましょう

**みなさんが教えている科目を一つ思い浮かべて
ください。その科目の中でどんな言語活動や言
語能力を扱っていますか。**



扱っている言語活動や言語能力を
あげたら、それぞれの活動・能力
のサブ・カテゴリーも考えてくださ
い。

JFスタンダードの木
『ガイドブック』 p.72～73

JFスタンダードの木を活用すると

- ターゲットとなる学習者に必要な言語活動と、その言語活動を行うために必要な言語能力のカテゴリーはどれかを考えながら学習目標を検討できる
- 「JFスタンダードの木」の根や枝のどの部分を学習する必要があるかを考えることによって、学習目的に応じた学習方針を組み立てることができる

JFスタンダードの木

『ガイドブック』 p.72～73